

目指す学校像	「明るく笑顔があふれる」「家庭、地域社会から信頼される」「安全で安心な環境で学べる」我が子を通わせたい学校をつくる
--------	---

重点目標	1 学びの自律と個別最適な学びを推進するICT活用と授業改善 2 学校・家庭・地域が一体となるコミュニティスクールのさらなる推進 3 児童と教職員との豊かな人間関係に支えられた生徒指導・教育相談の充実 4 明るく活気のある学校を目指した教職員の育成と働き方改革の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、国語・算数ともに全国平均にはわずかに及ばない結果だが、無回答率は低く、粘り強く問題に取り組んでいることがわかる。 ○日頃の学習の様子から、興味のあることに関しては、意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果から、書くことや情報の整理に課題が見られる。 ○さらに意欲的に学習に取り組めるよう、学びの自律化やICTの積極的な活用を進めていく。	基礎学力向上と学びの自律化に向けたICT機器の活用と授業改善  学ぶ楽しさを実感できる探究的な学びの時間の創出	①「神田小の授業づくり」をICT機器活用の面で修正、見直し等を行い授業力の向上に努める。 ②校内研修で、国語、算数を中心とした基礎学力の向上、ICT機器の効果的な活用法について、授業実践を重ねていく。  ③「STEAMS TIME」を中心として、探求的な学びや教科横断的な単元の創出し、児童に学ぶ楽しさを実感させる。	①学校評価にかかる児童アンケートにおいて、学習指導にかかる項目で肯定的ない回答の割合が85%以上になったか。 ②ICT機器活用にかかる研究授業を年に2回以上行い、研修を深められたか。  ①学校評価にかかる児童アンケートにおいて、探究にかかる質問項目で肯定的な回答が70%以上になったか。	①児童による学校評価において、「先生たちの授業はわかりやすい」との項目で96%となった。 ②プレ授業も合わせると計6回の研究授業を行い、どれもICT機器を活用した授業展開で行った。  ①児童による学校評価において、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦することができる」との項目で87%となった。	A	・児童にとってわかりやすいだけではなく、児童自身が進んで学び学ぶことの喜びを感じられる授業を展開できるように、研修を重ねていく。そのために学年で教材研究ができるような時間の確保を行う。  ・探究することの良さを感じて何事にも挑戦できるように、児童の状況に寄り添った個別支援ができるよう研修を重ねていく。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・学校評価の数値が向上したのはとても頼もしい。今後も引き続きわかりやすい授業を目指して頑張ってもらいたい。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査で、地域を大切にする項目と友達と協力する項目の質問で肯定的な回答をした児童の割合は、全国・市の平均を大きく上回った。 ○教室や廊下など清掃が行き届いているとの質問で、肯定的な回答が88%であった。 (課題) ○心と生活のアンケート結果から、低学年でも自己肯定感が低い児童が多く、自分に自信をもてない様子が見られる。 ○施設・設備の老朽化に伴う、雨漏りや壁面の修理等に早急な対応が必要である。	児童1人ひとりにとっての「Well-Being」な学校づくり  安心・安全で衛生的な学習環境の充実	①全教職員参加の「すこやか委員会」を月に1回実施し、児童一人ひとりに寄り添う組織的な対応が常に行えるようにする。 ②学期ごとに実施するアンケートにおいて児童の実態把握をし、聞き取りや心のケア、保護者との連携を迅速に行う。  ①安全点検を確実に行うとともに、事故を未然に防げるように、教職員の危機意識の向上に努める。	①学校評価に係る教職員アンケートの生徒指導・教育相談の項目で肯定的な割合が85%以上になったか。 ②学校評価に係る児童・保護者アンケートの生徒指導・教育相談の項目で肯定的な割合が85%以上になったか。  ①学校評価に係る児童・保護者アンケートの施設管理・環境の項目で肯定的な割合が80%以上になったか。	①教職員による学校評価の項目17・18において、肯定的な回答がそれぞれ90%を超え、昨年度より向上した。 ②児童による学校評価の「先生が頑張っていることをほめてくれる」との項目で肯定的な回答が94%となり、昨年度よりも向上した。  ①保護者による学校評価の「教室などの施設が整備されている」との項目で、90%となったが、昨年度よりも5%下がった。	A	・児童の生徒指導・教育相談にかかる内容については、今後もすこやか委員会を通して職員全員で共有・検討を行い、学校全体で取り組む意識を高めていきたい。  ・児童が安全に安心して学校生活を送れるよう、教育委員会や事務職員・用務と協働して施設環境の整備を進めていく。	・とても丁寧に授業を行っていることが学校評価にも表れた。今後も続けてほしい。 ・学校全体で児童を見てくれていることが学校評価につながっている。引き続き頑張ってもらいたい。
3	(現状) ○子どもの良さを伸ばすための教職員や地域の声掛けで、肯定的に行動できる子どもが増えてきている。 (課題) ○目指す児童の姿を家庭・地域・企業等に広め、地域に住み、地域に集う全ての方々と共有できるようにする。児童に育てたい力について熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けて取り組む。	目指す児童の姿を地域全体で共有するためのHPの活用・教育活動の公開  児童の自律につながるコミュニティスクールの工夫	①HP内の学校ブログの更新を行い、積極的に保護者・地域への情報提供をする。 ②授業参観やその他の学校行事での教育活動を、児童の成長が見られるようにするため、多く公開できるようにする。  ①学校運営協議会に児童自身が参加し、地域と協働して学校づくりが行えるようにする。	①月3回以上学校ブログを更新し、児童の様子や学校の出来事等を保護者や地域の方に迅速に情報提供することができたか。 ②学校評価において、開かれた学校づくりに関する項目で肯定的な割合が85%以上になったか。  ①学校運営協議会の全3回で、児童が参加して取組を発表する機会を設けることができたか。	①月に3～5回以上のブログ更新を行い、保護者・地域の皆様に情報発信を行った。 ②児童保護者による学校評価において「学校での出来事を家庭で話している」との項目において、どちらも85%以上を達成したが、昨年度より若干減少した。  ①全3回の学校運営協議会において、計画委員を中心とした児童の発表を行うことができた。	B	・学校HPでのブログ更新を、より円滑にできるよう校内で手順の整備を行っていく。 ・開かれた学校づくりを目的として授業参観以外でも公開ができるよう年間行事計画に取り入れていく。  ・今後も学校運営協議会に児童が参加して、一緒に学校を創っているという意識を高めていきたい。	・児童の個性を認めて伸ばすことはとても大切だと思う。学校だけでなく保護者や地域も伸ばすような取組をしていきたい。 ・子どもたち自身から「もっとあいさつをしよう」という行動が見られると、よりいい。
4	(現状) ○新たな学びのスタイルとなるICTを活用した授業展開等についてエバンジェリストが中心となり研修を重ねている。 (課題) ○教職員の生徒指導や保護者対応に対する迅速かつ正確な情報共有と組織的な対応力の育成と、児童一人ひとりに寄り添い、適切なタイミングで組織的に支援していく体制づくりが必要である。 ○個別最適な学びをするための授業の工夫が必要である。	教職員1人ひとりが自分のもつ力を発揮し、すべては神田の子の希望をはぐくむために努力できる組織づくり	①教職経験に応じた業務・授業改善について助言し、組織的にICT機器を活用した授業方法の研究や授業相談会を実施する。 ②児童の悩みやトラブル等に気づき、迅速に適切に対応できる教職員を育成できるように、生徒指導、教育相談にかかる研修を行い、教職員の資質向上に努める。	①学校評価の教職員アンケートでICT活用にかかる項目で肯定的な回答の割合が85%以上になったか。 ②全ての教員が、児童の悩みやトラブルに気づき、迅速に適切に対応する方法等を研修会等で学ぶことができたか。 ③学校評価にかかる児童アンケートで、「困ったことを学校の先生に相談している」との質問で肯定的な回答が80%以上になったか。	①学校評価の教職員アンケートにおいて「学校でタブレットPCを活用した授業を行っている。」との項目で、肯定的な回答が95%となった。 ②毎月のすこやか委員会で、児童の情報共有を行い、事例を共有して対応策について一緒に考えるなどの研修会を行った。 ③学校評価の児童アンケートにおいて、「先生やおうちの人に相談している」との項目は、昨年度と微減の78%であった。	B	・児童一人ひとりの可能性をひろげていくために、ICT機器を効果的に活用しながら、学ぶことが楽しい児童の育成を行っていく。 ・教職員自身が、悩みやトラブルを大人に相談ができるようにするために、啓発の授業や、日頃の声掛けを大切にしていきたい。	・「子どもたちのため」ということも大切だが、先生方自身のことも大切にしてほしい。 ・子どもへの対応で困っていることがあったら、どんどん地域を使ってほしい。子どものために頑張りたい。